

第 1 回

能代市都市計画マスタープラン 及び 能代市立地適正化計画 策定委員会

令和 2 年 1 1 月 2 4 日 (火)

1. 都市計画マスタープランとは？立地適正化計画とは？

2. 本市の概況

- 視点1:本市の現状
- 視点2:類似他都市等との比較による本市の位置づけ

3. 現行都市計画マスタープランの取組状況

4. 都市計画マスタープラン策定後の時代の変化

5. まとめ

- 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を策定する背景
- 本日の委員会でご意見をいただきたい事項

1. 都市計画マスタープランとは？
立地適正化計画とは？

1. 都市計画マスタープランとは？立地適正化計画とは？

4

(1) 都市計画マスタープランとは？

- ✓ 都市計画マスタープランは、市全体を対象に、概ね20年後を見据えたまちづくりの方向性を示す計画
- ✓ 現行の都市計画マスタープランは、平成22年3月に策定し、10年が経過
- ✓ 現行の都市計画マスタープラン策定当時の社会・経済状況からの変化に対応すべく、計画の見直しを行う

(2) 立地適正化計画とは？

- ✓ 立地適正化計画は、暮らしの機能（居住や医療・福祉・子育て支援・商業等の生活サービス施設等）に着目したコンパクトなまちづくりを進めるために必要な事項を定める計画
- ✓ 人口減少下にあっても、日常の暮らしで必要な機能を維持するため、居住や生活サービス施設等を対象とし、緩やかな誘導を促進するための区域（範囲）や取組を位置づけ

2. 本市の概況

視点1：本市の現状

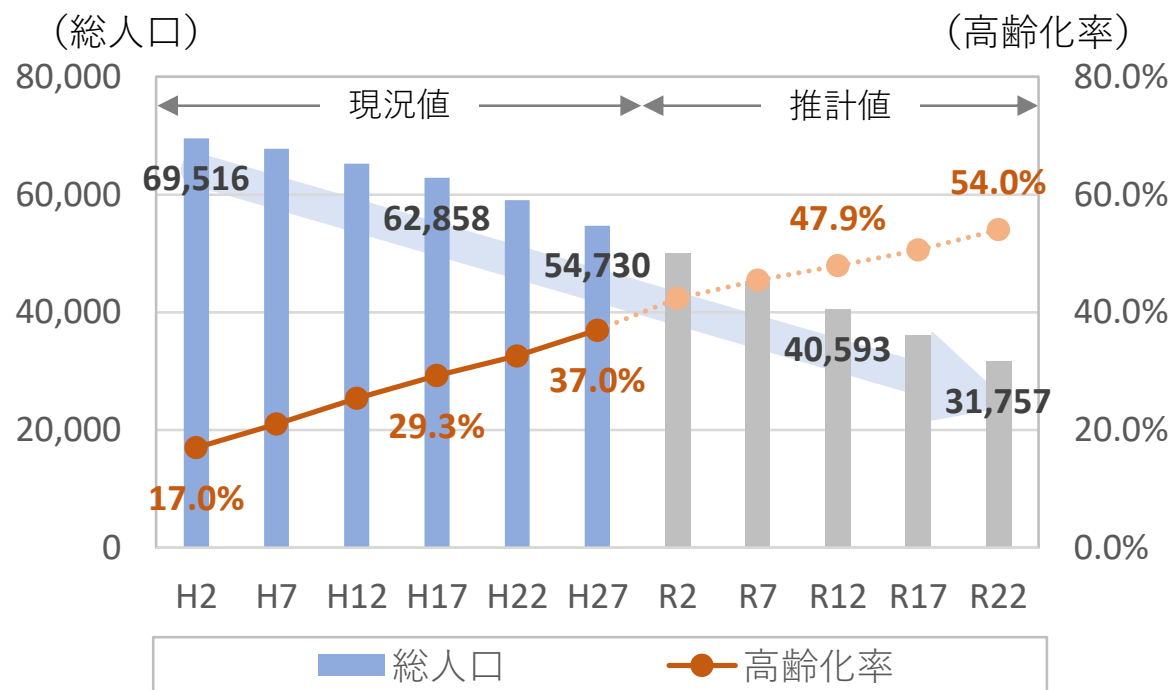
2. 本市の概況

(1) 人口動向と将来予測

人口減少は加速度的に進んでいく見通しです

- ✓ 過去25年 (H2 → H27) : 約1.5万人 (約20%) 減少
- ✓ 今後25年 (H27 → R22) : 約2.3万人 (約40%) 減少見込み

【本市の人口推移と将来人口推計】



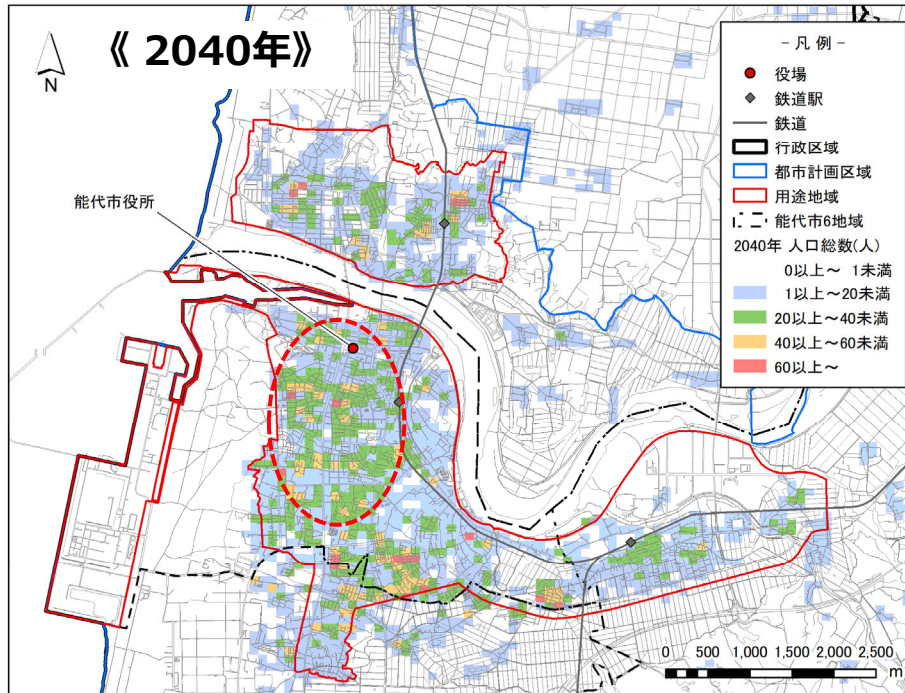
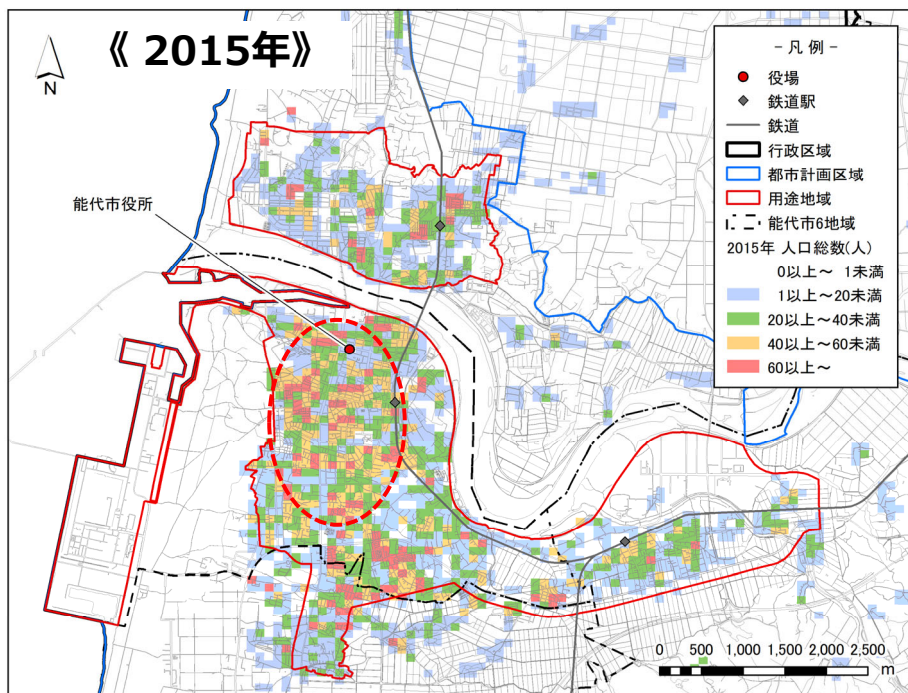
出典：国勢調査（現況値）、
国立社会保障・人口問題研究所（推計値）
※H18.3以前のデータは旧二ツ井町を含む
※総人口は、年齢不詳人口を含む

2. 本市の概況

(1) 人口動向と将来予測

市街地の中心部で人口が大きく減少していくことが予想されます

【人口分布（現況・将来）：能代市街地】



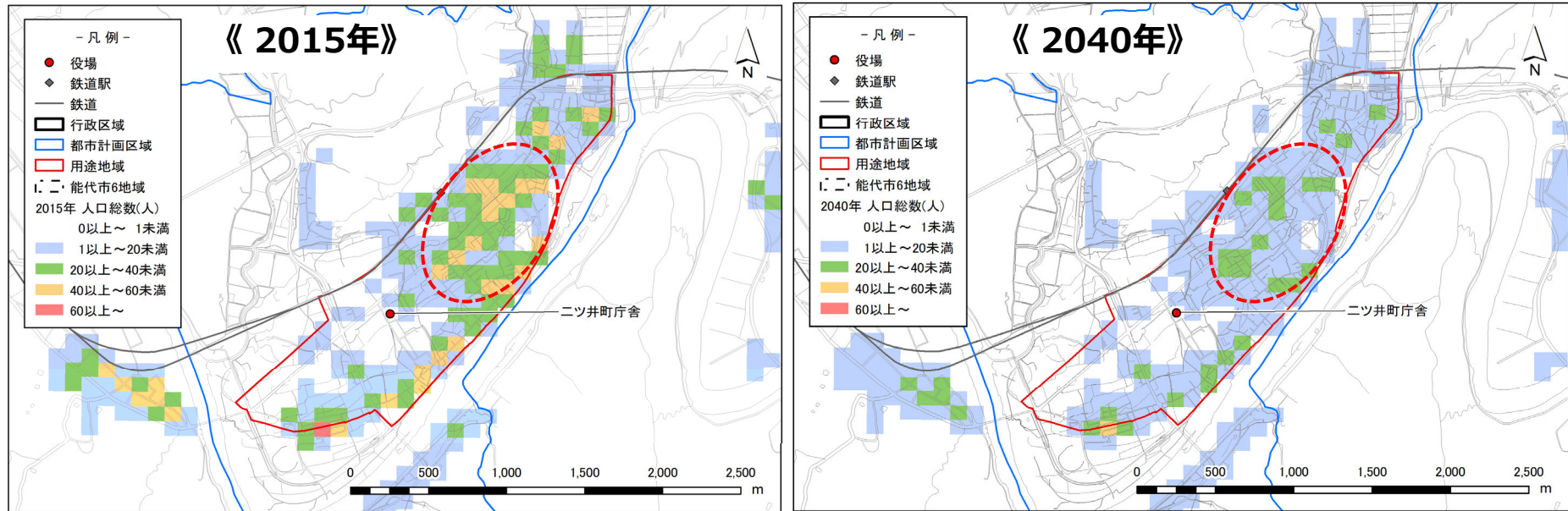
出典：2015年国勢調査100mメッシュ
：2040年図は、2015年国勢調査100mメッシュを基に推計

2. 本市の概況

(1) 人口動向と将来予測

市街地の中心部で人口が大きく減少していくことが予想されます

【人口分布（現況・将来）：二ツ井市街地】



出典：2015年国勢調査100mメッシュ
：2040年図は、2015年国勢調査100mメッシュを基に推計

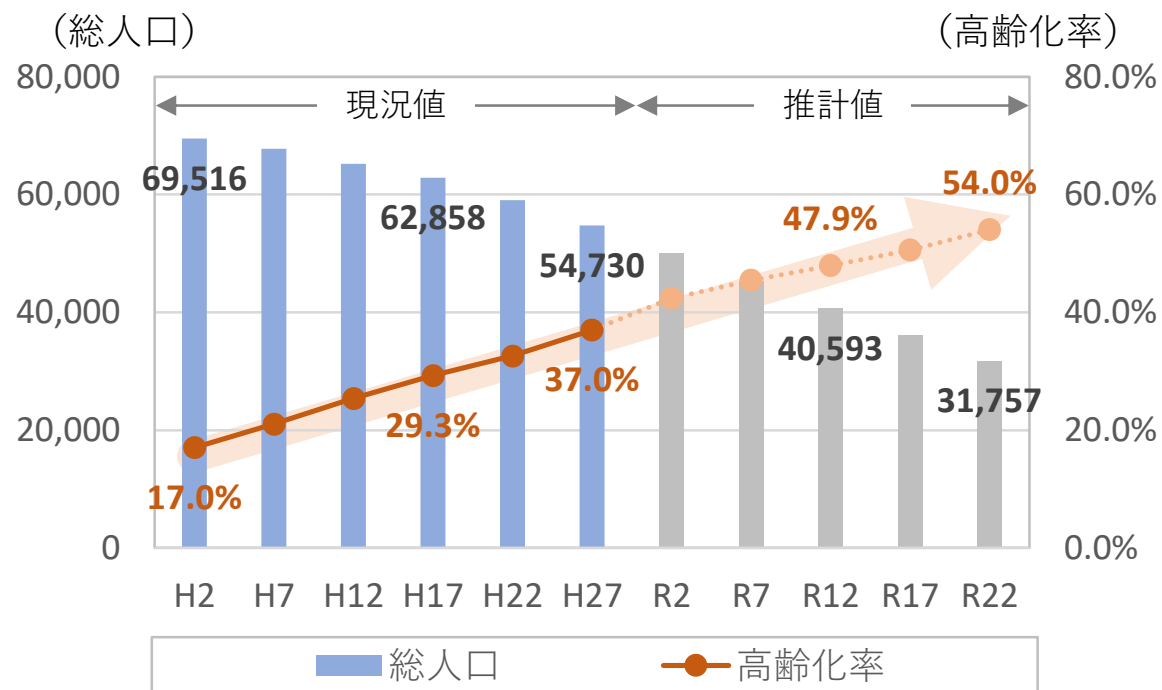
2. 本市の概況

(1) 人口動向と将来予測

高齢化も継続して進んでいく見通しです

- ✓ 過去25年（H2 → H27）：20ポイント増加し **37%が高齢者**
- ✓ 今後25年（H27 → R22）：17ポイント増加し **54%が高齢者**

【本市の人口推移と将来人口推計】



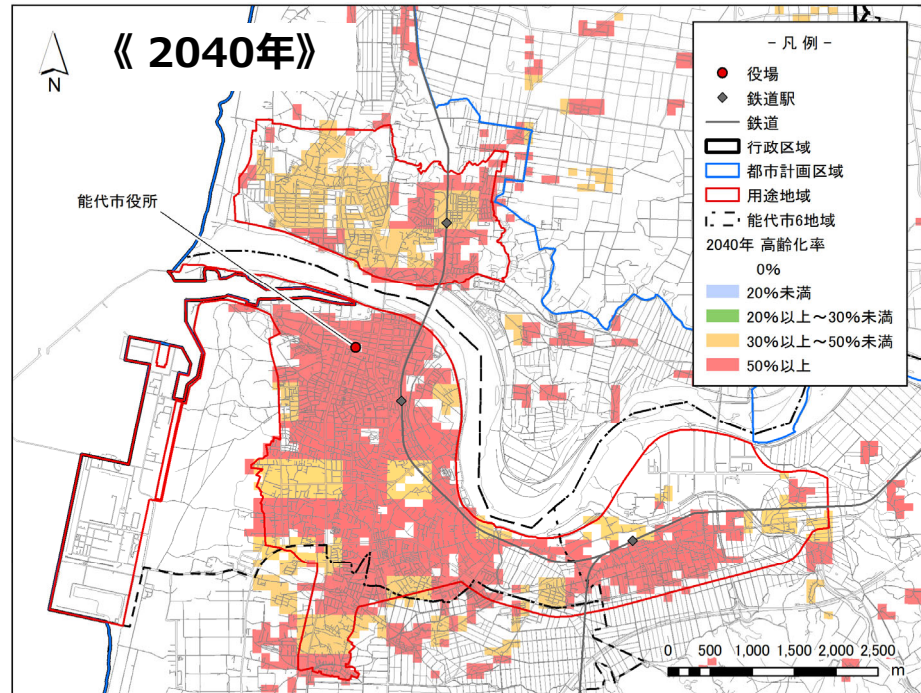
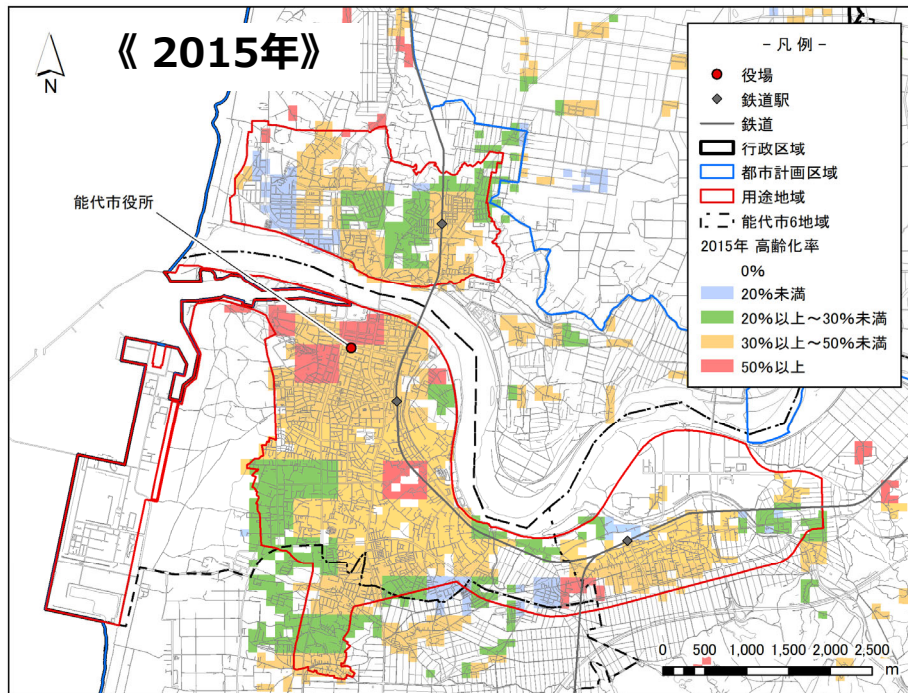
出典：国勢調査（現況値）、
国立社会保障・人口問題研究所（推計値）
※H18.3以前のデータは旧二ツ井町を含む
※総人口は、年齢不詳人口を含む

2. 本市の概況

(1) 人口動向と将来予測

用途地域内は、米代川の南側のほとんどの地区で、半数以上が高齢者になることが予想されます

【高齢化率分布（現況・将来）：能代市街地】



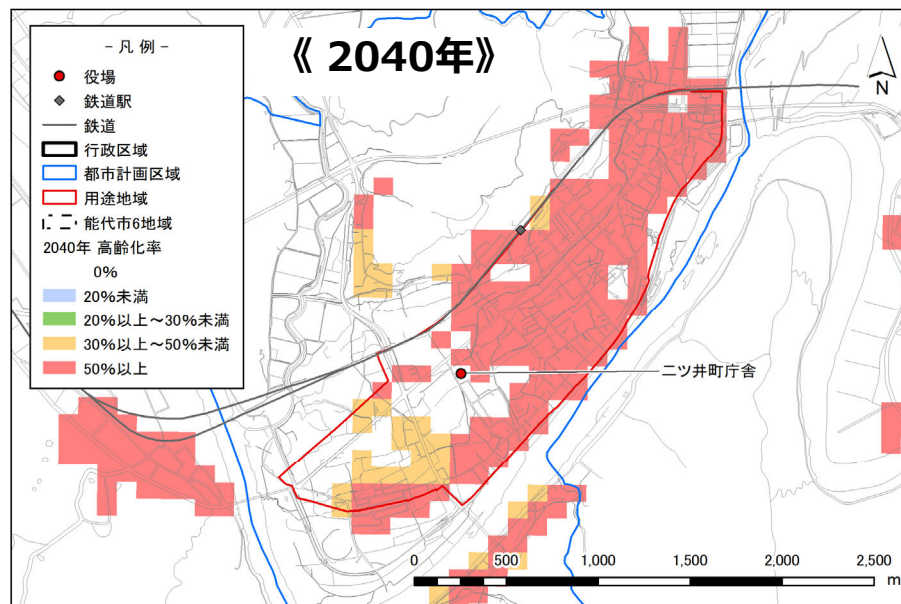
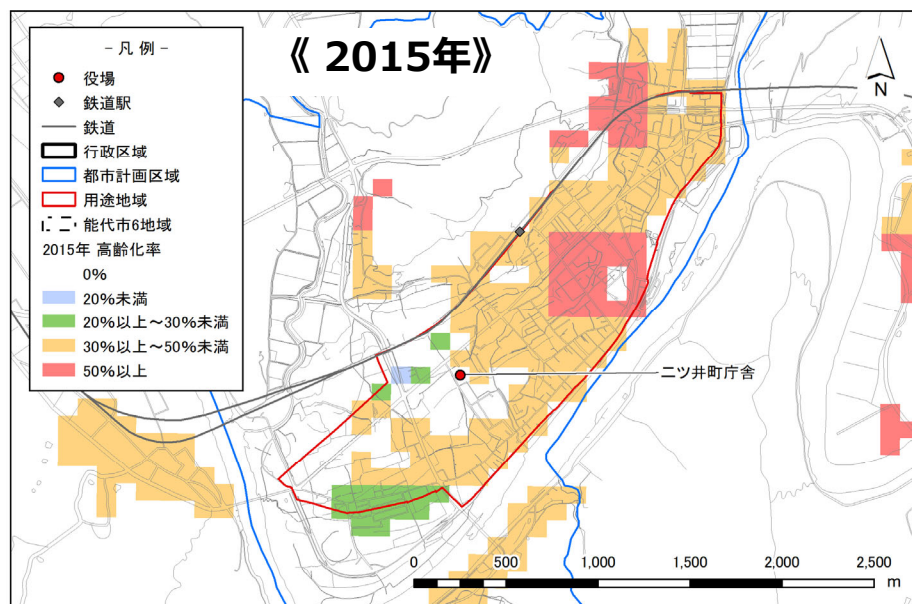
出典：2015年国勢調査100mメッシュ
：2040年図は、2015年国勢調査100mメッシュを基に推計

2. 本市の概況

(1) 人口動向と将来予測

用途地域内は、概ね全域で、半数以上が高齢者になることが予想されます

【高齢化率分布（現況・将来）：二ツ井市街地】



出典：2015年国勢調査100mメッシュ
：2040年図は、2015年国勢調査100mメッシュを基に推計

(2) 医療・福祉・子育て支援・商業等の生活サービス施設

人口が減少すると、生活サービス施設も減少するおそれがあります

- ✓ 医療・福祉・子育て支援・商業等の生活サービス施設は、一定規模の人口（利用者）によって支えられている
- ✓ 人口が減少すると、それにともない、生活サービス施設の廃業や撤退等が進んでいくおそれがある



【商業施設の商圈と施設規模】

商品の性質や業態の組み合わせ等で、商圈や立地戦略は様々

*コンビニエンスストア

大都市住宅地⇒商圈：半径500メートル、周辺人口：3,000人、流動客

その他の地域⇒商圈：半径2～3キロメートル（幹線道路沿いに立地）、周辺人口：3000人～4000人、流動客

*食品スーパー（2,000～3,000㎡規模）⇒周辺人口1～3万人

*ドラッグストア（1,000～1,500㎡規模）⇒周辺人口1～3万人

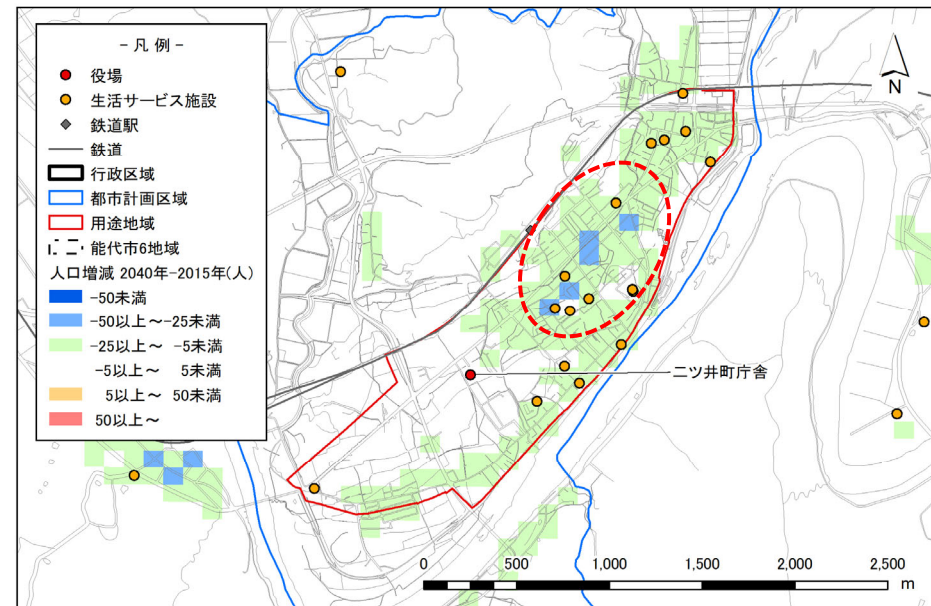
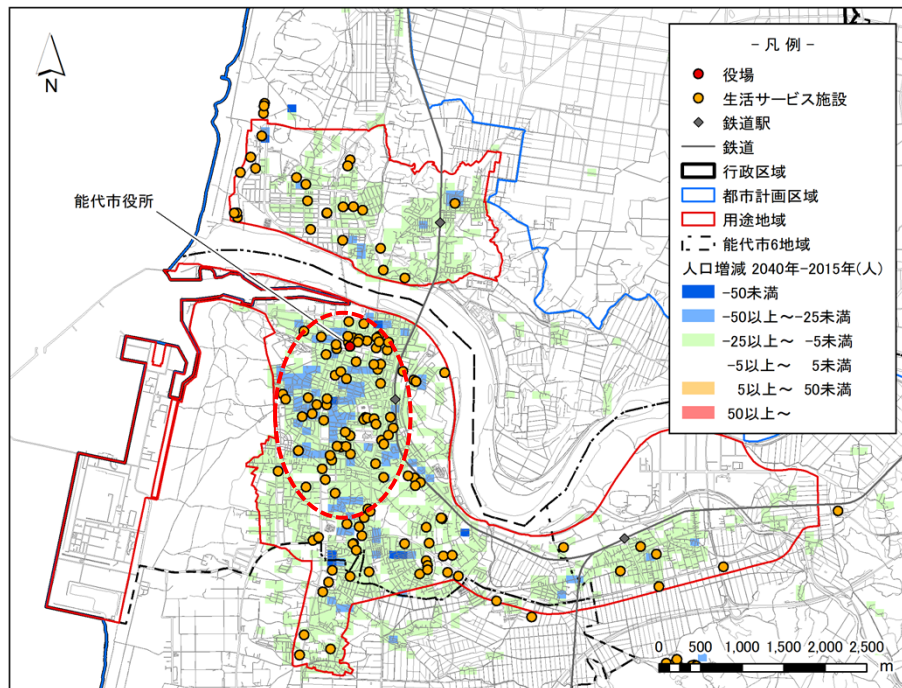
2. 本市の概況

(2) 医療・福祉・子育て支援・商業等の生活サービス施設

人口が減少すると、生活サービス施設も減少するおそれがあります

- ✓ 能代・ニツ井の市街地の中心部に、生活サービス施設が多く立地している
- ✓ しかし、市街地の中心部ほど人口減少数は大きくなる見通し

【2015～2040年の人口減少数の予測と生活サービス施設の分布状況】



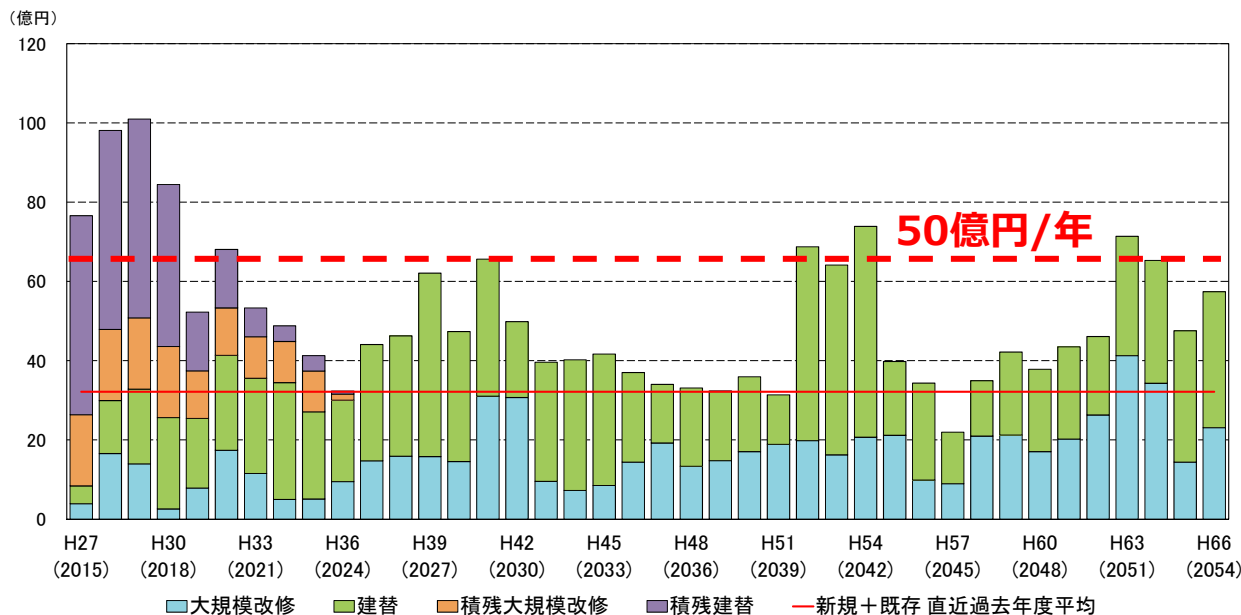
出典：医療施設・福祉施設・子育て支援施設
(国土数値情報ダウンロードサービス)
：大規模小売店舗 (平成28年度都市計画基礎調査、秋田県)

(3) 公共的なサービス

人口が減少すると、利用者負担の増加やサービス低下が発生するおそれがあります

- ✓ 市が保有する公共施設は、現在のサービスを維持すると仮定した場合、約50億円/年の更新費用が必要
- ✓ 市民1人あたりに換算すると、平成27年から令和22年で1.7倍に増加（平成27年：9.1万円/人 ⇒ 令和22年：15.7万円/人）

【公共施設の将来の更新費用試算結果】



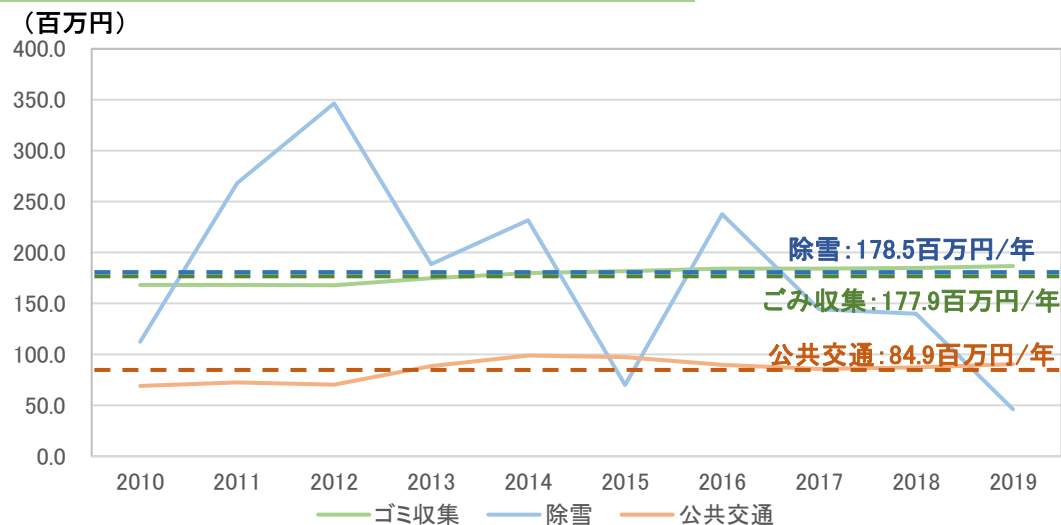
出典：能代市公共施設白書
（平成28年9月、能代市）

(3) 公共的なサービス

人口が減少すると、利用者負担の増加や
サービス低下が発生するおそれがあります

- ✓ ごみ収集や除雪、公共交通の運行に約4.4億円/年の経費を使用
- ✓ 20年後、現在と同じ範囲・同じサービスを行うと仮定すると、市民1人あたりの経費は1.7倍（平成27年から令和22年）
（平成27年：8.1千円/人 ⇒ 令和22年：13.9千円/人）

【除雪、ごみ収集、公共交通に係る経費の推移】



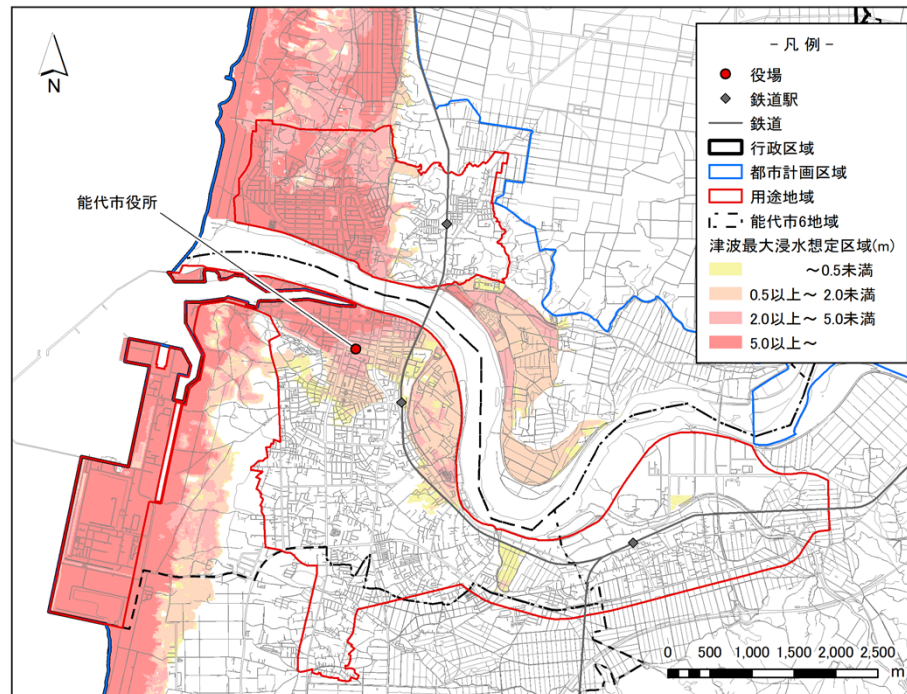
出典：庁内資料

(4) 自然災害

市街地の広い範囲で、津波や洪水による浸水が予想されています

- ✓ 本市は、市街地形成の位置特性から、津波や洪水による浸水被害の発生が予想される
- ✓ 津波の浸水想定範囲は、能代地域の用途地域の概ね40%を占める

【津波浸水想定範囲】



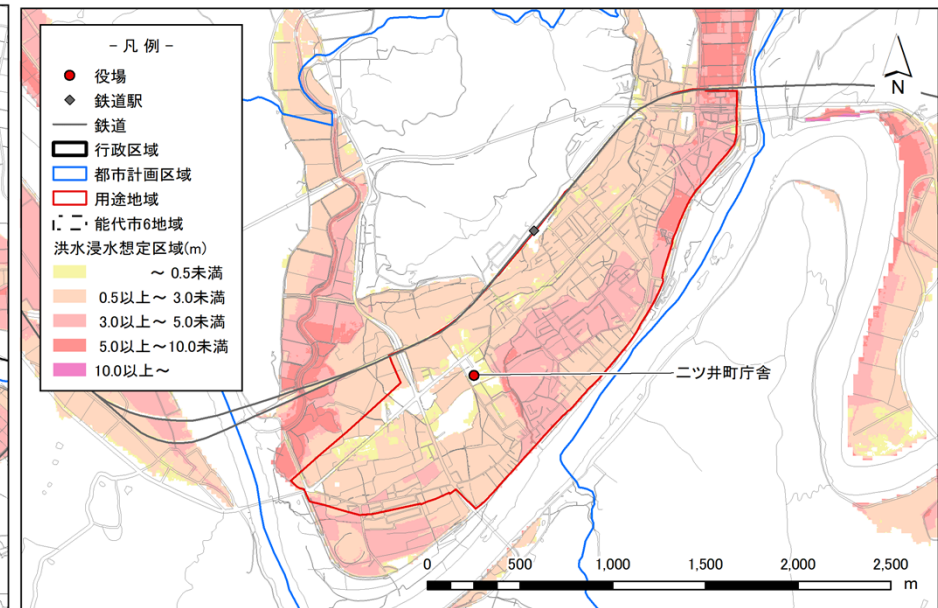
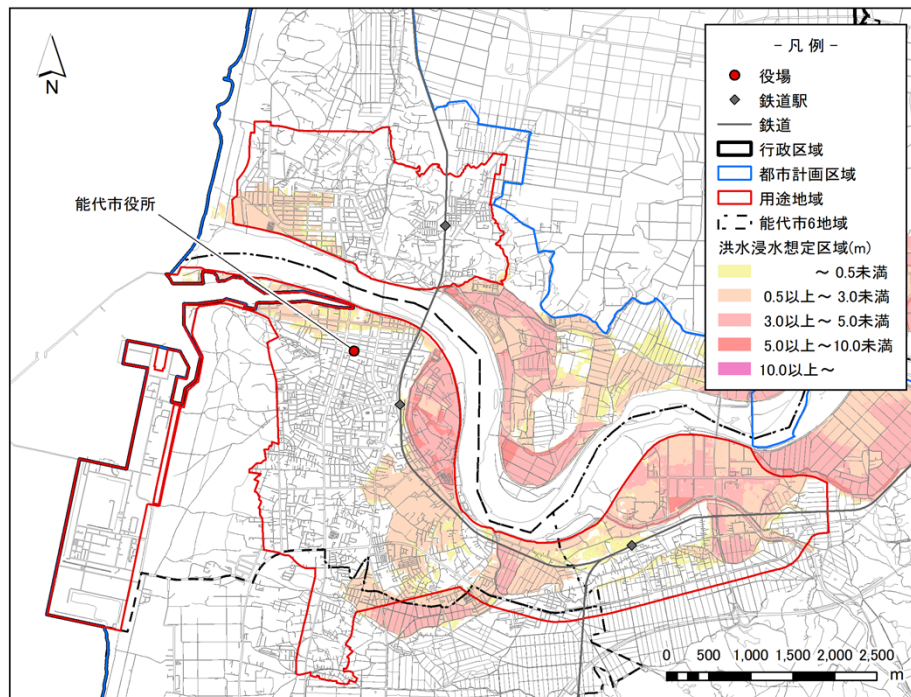
出典：津波浸水想定図
(平成28年3月、秋田県)

(4) 自然災害

市街地の広い範囲で、津波や洪水による浸水が予想されています

- ✓ 洪水の浸水想定範囲は、能代地域の用途地域の概ね35%、ニツ井地域の用途地域の概ね95%を占める

【洪水浸水想定範囲】



出典：洪水浸水想定区域図（想定最大規模）
：米代川（平成29年6月、国土交通省）
：藤琴川（令和元年9月、秋田県）、阿仁川（令和2年1月、秋田県）

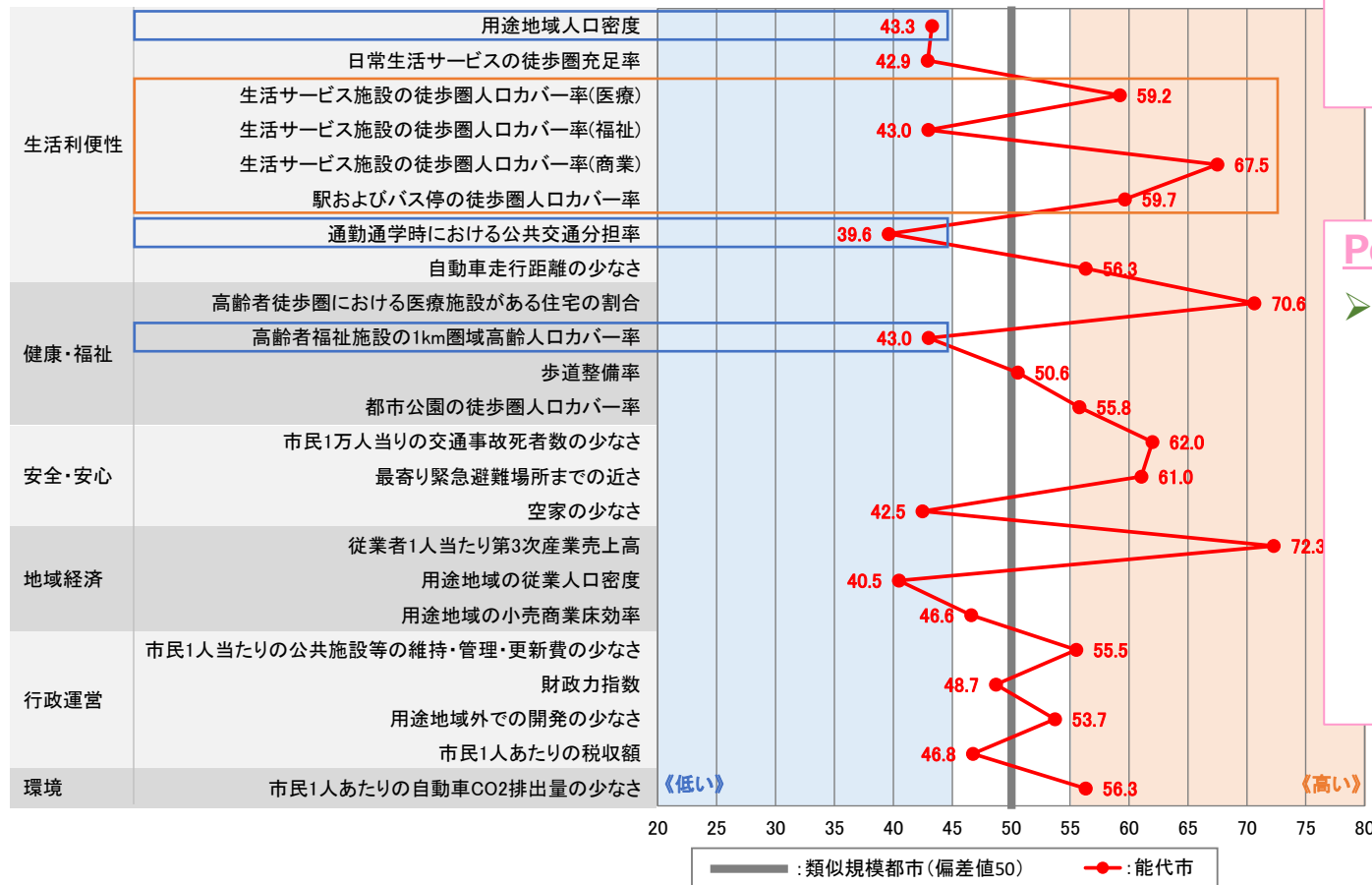
2. 本市の概況

視点2：類似他都市等との比較による
本市の位置づけ

2. 本市の概況

(5) 類似他都市との比較による本市の位置づけ

【行政区域人口が同規模（5～6万人）の他都市平均との比較：偏差値】



Point

- 「用途地域人口密度」が相対的に低く、人口減少の進行が速い

Point

- 「通勤通学時における公共交通分担率」が相対的に低く、「生活サービス施設や駅およびバス停の徒歩圏人口カバー率」は高いことから、自動車依存の交通体系に支えられた広範囲な生活サービスの提供を行っている

(5) 類似他都市との比較による本市の位置づけ

Point : 「用途地域人口密度」が相対的に低く、人口減少の進行が速い

Point : 「通勤通学時における公共交通分担率」が相対的に低く、「生活サービス施設や駅およびバス停の徒歩圏人口カバー率」は高いことから、自動車依存の交通体系に支えられた広範囲な生活サービスの提供を行っている

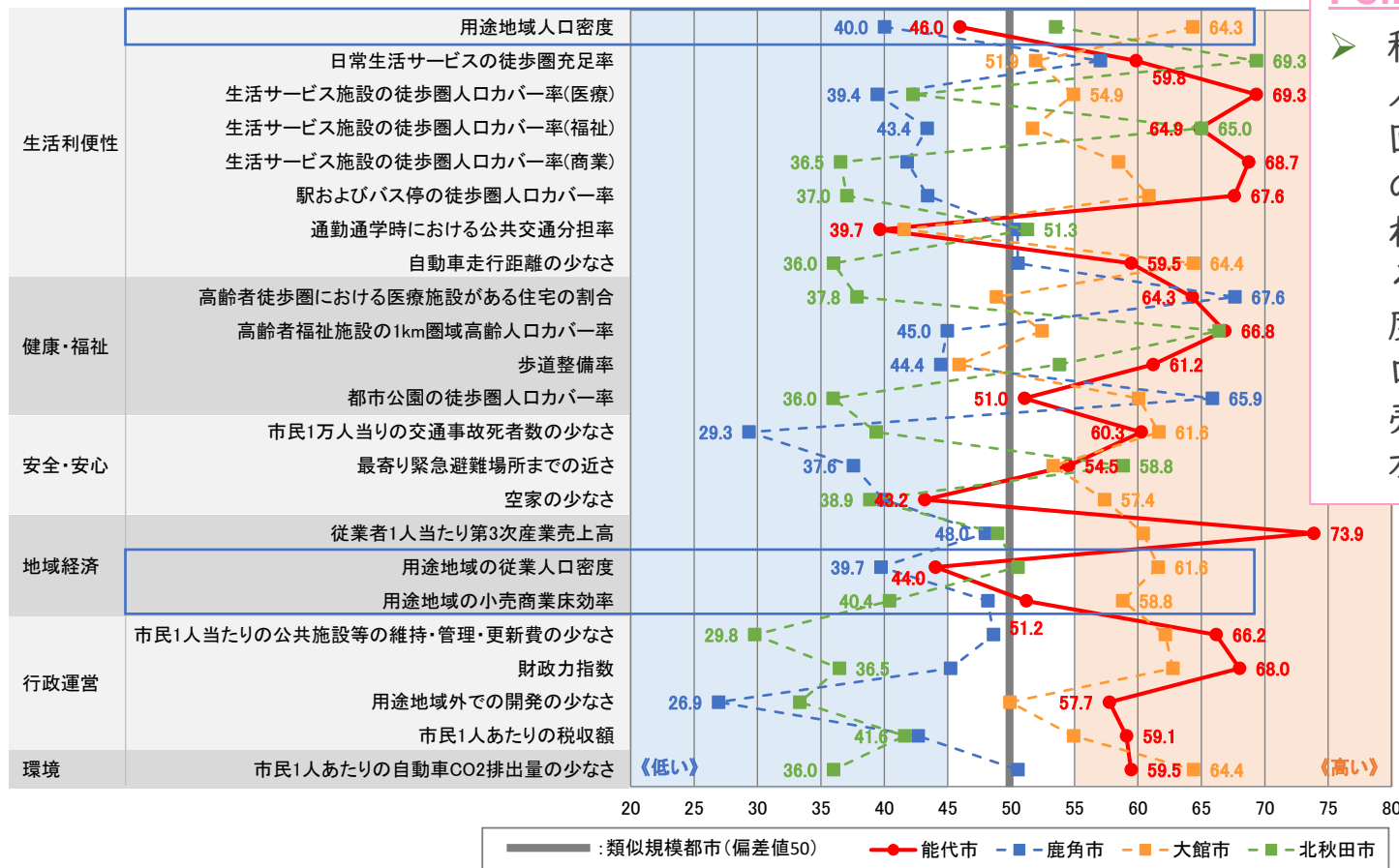


- 人口密度が低い市街地を広くカバーしており、施設の効率が低い中で更なる人口減少が進めば、生活サービス施設の廃業や撤退等が生じ、生活しづらくなっていくことが懸念
- 高齢化の進行にともない、自動車を運転しなくなった・できなくなった後の移動や外出が困難になり生活しづらくなることが懸念

2. 本市の概況

(5) 類似他都市との比較による本市の位置づけ

【秋田県内の市部平均との比較（秋田市を除く）：偏差値】



Point

➤ 秋田県北4市の比較では、人口規模が約1.5万人上回る大館市に対し、多くの指標で同等もしくはそれ以上の水準となっているが、「用途地域人口密度」「用途地域の従業人口密度」「用途地域の小売商業床効率」は大館市水準との差が開いている

出典：都市モニタリングシート（国土交通省）を基に作成
 ※偏差値が高ければ良い状態、低ければ悪い状態を表している

(5) 類似他都市との比較による本市の位置づけ

Point：秋田県北4市の比較では、人口規模が約1.5万人上回る大館市に対し、多くの指標で同等もしくはそれ以上の水準となっているが、「用途地域人口密度」「用途地域の従業人口密度」「用途地域の小売商業床効率」は大館市水準との差が開いている



■大館市と比較し、市街地部の拠点性が相対的に低く、さらに人口減少が進むことで、更なる拠点性の低下が懸念

3. 現行都市計画マスタープランの 取組状況

3. 現行都市計画マスタープランの取組状況

参考資料2 参照

24

基本理念1：豊かな自然と共生するまち

【自然との共生】

- 平成22年度から令和元年度までの開発許可件数（総数）のうち、用途地域外は5件(10.4%)となっており、用途地域内への誘導および用途地域外の自然環境の保全に一定の効果があった

Point：今後とも、用途地域外における無秩序な開発を抑制していくことが課題

基本理念2：産業と雇用を創出する活力あるまち

【産業振興】

- 能代港は、平成23年に日本海拠点形成促進港に、令和2年に海洋再生可能エネルギー発電設備等拠点港湾に指定され、リサイクル関連産業や風力発電関連産業を中心とした企業誘致に取り組み、計画策定後、複数の企業が立地

Point：能代工業団地には未分譲地が残存している状況にあり、継続的な企業誘致や産業創出が課題

基本理念3：快適に安心して住み続けられるまち

【公共交通】

- 路線バスの維持・改善のほか、市街地循環バスやデマンド型乗合タクシーの運行に取り組み、デマンド型乗合タクシーに関しては、公共交通空白地の解消に向け、運行エリアを拡大

Point：持続可能性を高めるための公共交通体系の整備に取り組んだが、路線バスの利用者は総じて減少傾向にあり、**地域間・都市間の連携を支える路線バスの維持**が課題

【住環境】

- 生活道路や上下水など必要な都市基盤整備を順次実施するとともに、防災・減災に関する各種のハード・ソフト事業を実施

Point：多発化する**自然災害に備え、引き続き防災・減災対策に取り組**みつつ、**災害に強いまちづくりを進める**ことが課題

基本理念4：人が集まり交流によりにぎわいが生まれるまち

【にぎわい形成】

- 能代中心市街地の拠点性の維持・向上に向けた各種事業を実施したほか、ニツ井中心部においてもソフト事業を中心ににぎわい創出に取り組んだ
- しかし、能代・ニツ井の各市街地中心部の活性化が十分に図られた状況にはいたっていない

Point：能代中心市街地およびニツ井中心部やその周辺に、住宅や各種生活サービス施設等の都市機能を誘導していくことが課題

：新たに、イオン新能代ショッピングセンター（仮称）の開業が予定され、能代中心市街地およびニツ井中心部と東能代IC周辺との機能の棲み分けのもと、相互に連携をしながら交流やにぎわいの創出を図ることが課題

4. 都市計画マスタープラン 策定後の時代の変化

(1) 加速化する人口減少・高齢化

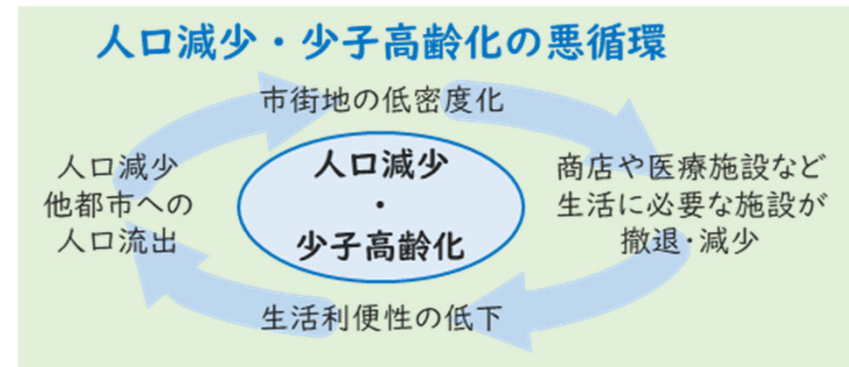
- ✓ 本格的な人口減少・超高齢社会を迎え、都市づくりのあり方として、**効果の高い事業への選択と集中**を徹底しながら、固有の文化・伝統・自然条件等を生かした質の高い暮らしを実現するなど、**多様性がある地域独自の戦略的なまちづくり**が求められている

(2) コンパクトで持続可能な都市の形成

- ✓ 生活サービス施設等が集積している市街地部では、人口減少・超高齢社会にあっても人口密度を維持し、都市活動、都市経営等の面で持続可能な都市を形成するため、**「コンパクト・プラス・ネットワーク」**の考えに基づく**都市構造への転換**を進めるほか、自動運転や情報通信技術等の新技術への柔軟な対応が求められている

(3) 地方創生のまちづくり

- ✓ 人口減少・少子高齢化の悪循環から脱却するため、**まちなかや拠点の賑わい創出によるエリア価値の向上**に取り組むほか、若い世代が安心して働ける環境整備を進め、豊かな生活を実現することが求められている
- ✓ 各地域が地域資源を活用しながら自立し、補完しあう**自立・分散型社会を形成**し、地域内で資金を循環させ、活力を最大限発揮するまちづくりが求められている



(4) 社会資本の老朽化

- ✓ 公共建築物や道路、橋りょう等の社会基盤施設は、今後、一斉に老朽化することが見込まれており、国民の安全・安心の確保や**維持管理・更新等に係るトータルコストの縮減・平準化**への対応が求められている

(5) 頻発化・激甚化する自然災害

- ✓ 気候変動により水害、土砂災害等の自然災害が頻発化・激甚化している状況を踏まえ、防災に資する社会基盤施設の着実な整備や、施設的能力を大幅に上回る災害への対応にも取り組むことが求められている

(6) 多様化・複雑化するニーズへの対応

- ✓ まちづくりに対する市民のニーズは多様化・複雑化しており、住民・企業・行政等が力を合わせ、きめ細かなサービスを提供することで地域課題に対応することが求められている
- ✓ 人生100年時代に向け、豊かで充実した生活を実現するため、健康増進に資するまちづくりへの対応が求められている
- ✓ 新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の拡大により、テレワークやデジタル化の進展、新たな生活様式の実践など、経済や社会、意識の変化に積極的に対応することが求められている

5. まとめ

(1) 都市計画マスタープラン及び立地適正化計画を策定する背景

■本市の概況

- ✓ 人口減少・高齢化は今後も継続していく見通し
- ✓ 市街地中心部で人口減少が大きく進むと予想され、当該範囲に立地する生活サービス施設の廃業や撤退等が進むおそれ
- ✓ 公共的なサービスも、市民1人あたりの負担の増加、または、サービスの低下が発生するおそれ
- ✓ 市街地の広い範囲で、津波や洪水による浸水が予想されている

■都市計画マスタープランの取組状況

- ✓ 能代中心市街地およびニツ井中心部やその周辺を対象に、住宅や各種生活サービス施設等の都市機能を維持・誘導していくことが課題
- ✓ 地域間・都市間の連携を支える路線バスの維持が課題
- ✓ 多発化する自然災害に備え、引き続き防災・減災対策に取り組みつつ、災害に強いまちづくりを進めることが課題
- ✓ 継続的な企業誘致等の産業振興に取り組むことが課題

(2) 本日の委員会でご意見をいただきたい事項

■能代市が抱える問題・課題

- ✓ 生活者の視点から、本市が抱える問題・課題について、自由にご意見をいただきたいと考えています

(例えば)

- ・ 能代中心市街地やニツ井中心部に関する問題点や課題
(昔と比べると…、…が不足している・あったら良い 等)
- ・ 防災・減災に対する問題点や課題
(…が心配、…があると安心、…をして欲しい 等)
- ・ その他、まちづくり全般についての問題点や課題等
(…を活用すべき、…をしたら良い、…をして欲しい 等)

【視点】

- 土地利用 (市街地部、郊外部、自然環境)
- 社会基盤 (道路、公園・緑地、河川等)
- 公共交通
- 景観
- 空き地・空き家
- 地域コミュニティ 等

今後のスケジュール

今後のスケジュール

令和2年 11月24日	第1回
令和3年 2月中～下旬	第2回 ・アンケート調査結果 ・課題整理結果 ・都市構造分析結果 ・将来都市構造
5月下旬	第3回 ・都市計画マスタープラン：全体構想 ・立地適正化計画：基本的な方針
8月下旬	第4回 ・都市計画マスタープラン：地域別構想 ・立地適正化計画：誘導区域・誘導施設
11月下旬	第5回 ・両計画の素案
12月下旬～	住民説明会、パブリックコメント
令和4年 2月上旬	第6回 ・両計画の案
2月下旬	都市計画審議会

語 句	意 味
【4頁】都市計画	<ul style="list-style-type: none"> 都市の健全な発展と秩序ある整備を図るため、「土地利用の計画」「都市施設（道路や公園等）の整備の計画」「市街地開発事業（区画整理等）の計画」を定めること
【7頁】都市計画区域	<ul style="list-style-type: none"> 一体の都市として総合的に整備・開発・保全する必要がある範囲として、都道府県知事が指定する都市計画制度上の都市の範囲のこと 本市では、能代地域とニツ井地域に指定されている
【7頁】用途地域	<ul style="list-style-type: none"> 建物の用途の混在を防ぐことを目的とし、住居、商業、工業など市街地の大枠として土地利用を定めるもの 本市では、第一種低層住居専用地域など13種類のうち、9種類を指定している
【19頁】人口密度	<ul style="list-style-type: none"> 単位面積あたりの人口数のこと 都市計画法では、人口密度が1haあたり40人以上の地区が連たんして3,000人以上となっている範囲を既成市街地としている
【19頁】公共交通分担率	<ul style="list-style-type: none"> 移動の際に公共交通を用いている割合
【21頁】商業床効率	<ul style="list-style-type: none"> 都市全域の小売商業売場面積あたりの年間商品販売額
【24頁】開発許可件数	<ul style="list-style-type: none"> 都市計画区域内では1,000㎡以上、都市計画区域外では10,000㎡以上の開発行為を行う場合、市長の許可が必要となり、その件数のこと
【25頁】公共交通空白地	<ul style="list-style-type: none"> 一般には、鉄道や路線バスが運行されていない地域のこと 本市では、鉄道駅から半径1km、バス停から半径300m圏域外の地区として定義している
【28頁】超高齢社会	<ul style="list-style-type: none"> 65歳以上の人口の割合が全人口の21%以上（5人に1人以上）を占めている社会のこと
【28頁】コンパクト・プラス・ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少・高齢化が進む中でも地域の活力を維持し、住民が安心して暮らせるよう、医療・福祉・商業等の生活機能と居住を誘導（コンパクトシティ）するとともに、まちづくりと連携した公共交通ネットワークにより、持続可能なまちづくりを進めること